有朋

「有朋自遠方来」

有朋会会報第 38 号
令和元年７月１日

令和元年、有朋会会長就任にあたって

有朋会会長　**山　田　直　行**

爽やかな５月の風と共に、新しい元号「令和」の時代が始まりました。有朋会会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

この度、宮尾正隆会長の後を受け会長を仰せつかりました山田直行（Ｓ47美卒）です。もとより浅学非才の身ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら、精一杯務めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、昨年は明治維新150年、有朋会130年の記念すべき年でした。そして今年は令和元年ということで、まさにメモリアルな時代の風が吹いております。そんな時代の節目に呼応するように「有朋会130年記念誌～創造と継承～」が刊行されました。前有朋会副会長の鶴良樹先生を記念誌編集委員長として、足掛け２年、17回の編集会議を経て完成上梓されました。多くの方々からの資料提供や新たな発掘発見などがあり、有朋会の歴史の深さと彩りの豊かさに改めて気づかされ、感動いたしました。今回の記念誌作成には次の５つのポリシー（方針）を掲げてありますのでご紹介します。

1．有朋会130年の歴史を、明治維新からの歴史の上に重ね、佐賀の豊かな教育的風土や文化的な背景を考慮する。
2．ビジュアル（視覚的）な表現に配慮し、図や写真、刊行物、新聞記事を多く活用する。
3．会員の戦時中の記録を務めて発掘する。残された慰問絵巻や記述録など多く掲載する。
4．志半ばで殉職された先生方や事故で亡くなった子どもたちの事を後世に伝える。
5．「有朋会」命名の趣意を尊重し、その元になっている「論語」の一節の文字を、記念誌装丁の意匠に生かす。

というものでした。

新しい時代の始まりです。「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているといいます。この新しい時代の到来を共に喜び、有朋会会員の皆様が美しく心を寄せ合い、会員相互の親睦と知見の交換を図りながら、母校の発展に寄与し、教育及び社会・文化の振興発展に貢献できますように、本会へのご理解とご協力をお願いし、会長就任のご挨拶といたします。

ふるさとスケッチ

「次郎物語」の作者下村湖人（1884～1955）の生家。今年は生誕135年となる。湖人の実父、内田郁二は佐賀藩35万石の蓮池支藩の武士（勘定方）で、廃藩置県ののち、明治11年長崎県佐賀師範に入学し、同年６月廃校のため佐賀中学へ入学する。当時士族の子弟は教育者になる人も多かった。明治５年の近代日本の最初の教育改革「学制頒布」は、元佐賀藩士で「弘道館」で学んだ大木喬任（初代文部卿）や江藤新平（文部大輔）らによってなされた。ふるさと佐賀にはすでに豊かな教育風土が培われていた。

下村湖人生家（神埼市）

随筆など

地域の宝探し

H29卒　株式会社スチームシップ　米　谷　典　子

現在の仕事に就いて１年が経ちました。いま私は株式会社スチームシップという会社で「地方の会社でもできるではなく、地方の会社だからできる」をコンセプトに、地域密着型で地域に眠っている宝を探しながら仕事をしています。

私がこの会社に入ろうと決断した理由は、会社のコンセプトでもある「地域の宝探し」というワードに惹かれたからです。

大学在学中から「地域×デザイン」という分野にとても興味がありました。地域で活躍している職人さんの技術を残すことや地域活性化などを自分の得意とするデザインという分野でどうにか関われないかと考えていた時に出会ったこの会社。

１年という期間でとても多くの経験をさせてもらいました。

スチームシップは現在長崎県波佐見町にオフィスを持ち、ふるさと納税を専門的に扱っています。この会社に入ってwebデザインや印刷物のデザインなど多くのデザインを制作し、自分の知識・技術不足を実感することも多かったのですが、周りのメンバーに支えられて１年前の自分よりも確実にパワーアップすることができたなと実感しています。

地域の魅力的なものにも多く触れることができ、まさに地域の宝探しをしながら仕事ができているなと思います。

今後も多くのデザインを手がけていき、地域の魅力を多くの人に発信していけるようなデザイナーになりたいです。

メディアを知る

H16卒　元佐賀新聞社　高　原　陽　子

１歳の息子が絵本の挿絵に、人差し指を立てスライドさせたときには衝撃を受けました。接触が避けられない現代こそ改めてメディアの特性を知る必要があります。

もちろんネットやメディアは悪いばかりではありません。好きな時に好きなだけ情報を集めてくれる最高の友達であり賢い先生でもあります。ただ、そこには必ずバイアスがかかっています。

錦織圭選手や大坂なおみ選手の活躍で、テニス界は大盛り上がりですが、サッカーやフィギュアスケートの試合に比べ、テレビ放送は殆どありません。サッカーやスケートは試合、演技時間が決まっていますので打ち切りの心配がなく番組は大歓迎。人気が出ようとも長期戦になるテニスや将棋などは、取り上げづらいのです。

3.11。火災や津波の映像が繰り返し流された地域には、寄付もボランティアも集まりました。一方ヘリも飛ばせないほどの被災地や、原発などインパクトの無い場所は取材もされず復興が進まないのが現実です。

さて、佐賀市内の小学校に冷暖房が完備されることになりました。子供たちが小躍りしたのも束の間、半年後に国は、佐賀県にオスプレイを配備すると発表しました。記者の私が言えることは情報はヒントであって答えではないということです。答えは別のところに隠されている場合が往々にしてあります。付き合い方を再確認することが、平成最後に私たちに課せられた宿題だと思っています。

私を支える言葉

Ｈ５卒　佐賀県庁支部　**松　尾　直　子**

「お前のよさは明るさとガッツだ。」小学校卒業時に大好きな先生が言ってくれた言葉。人より秀でたものがない私だが、幼いころに刻まれたこの言葉で私は私でよいのだと思える。中学生、高校生と多感な時期に苦しいことや自分を見失いそうになったら、私には明るさとガッツがあると自分に言い聞かせた。

「曲がったり避けたりせず全身全力で突き破ってほしい。」大学生の時、恩師が卒論の最後のページに書いてくださった言葉。

社会に出て、まっすぐに生きることが難しいと感じたり、全力を出すことに躊躇したりすることもある。そんな時に曲がったり避けたりせず全身全力でという言葉に背筋が伸びる。この言葉は、教壇に立ち、子供たちと向き合う私にエールを送ってくれる言葉だ。

そして、今。年を重ね、少しずつ経験も増え自分のことだけに全力を注げばよかった頃とは違い、自分に課せられることが増えてきた。そんな時、「置かれた場所で花を咲かせなさい。」勤務校の校長先生が言った言葉。置かれた場所がどんな場所であったとしても、求められる場所で根を張り小さな花でもいいから自分の花を咲かせなければと思う。一歩踏み出す力となる言葉だ。

私を支えてくれる言葉たち。これからもこの言葉たちに支えられていくことだろう。そして、次はどんな言葉に出会うのか？その「出会い」を楽しみに、自分らしい明るい花を咲かせたいと思う。

佐賀大学を訪れて

Ｓ63卒　伊万里・西松浦支部　**宮　﨑　泰　仁**

平成30年８月25日土曜日。この日、有朋会の130周年記念総会・祝賀会が行われた。都合のため総会・祝賀会には参加できなかったが、その後に行われた同期会には参加できた。久しぶりの友人と積もる話を交わし、懐かしさと卒業してからの年月に思いを馳せたひとときであった。

次の日、山口県から来た友人と一緒に佐賀大学を訪れた。「ここに国語科と数学科、英語科のボックスがあったなぁ。」「ここで学校教育原理をとったっけ。」など思い出話に花を咲かせた。学内は自分がいた頃と比べると、随分きれいになっていた。美術館や図書館などの新しい建物ができて、モダンになっていた。美術館は明るく開放的で、絵画講座の催しが行われていた。図書館は、土曜日のためか学生は少なかったが、大学生向けの専門書が多く並んでいた。食堂で学食を食べたかったが、休みであった。メニューを見ると当時と同じものがあり、思わず「おー。」と友人と声をもらした。友人が是非、寮を見たいというので行ってみた。一部変わっていたが、昔のままの古いというか趣があるというか、一番当時に近い建物であった。

今回、佐賀大学を訪れたことで、時代に応じて新しく進化する一面と、昔の面影を残す一面の両面を感じ、友との有意義な時間を過ごすこともできて大変良かったと感じた。

趣味など

初めての太刀魚釣り

S50卒　福岡支部　　鶴　　久　　生

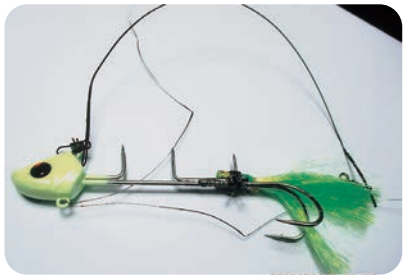
私は在職中より、自分で釣った魚を自分で捌いて料理し食してみたいと思っていた。

しかし、生来の不精と仕事にかまけてその機会を失っていた。

同じマンションに住むKさんとはふっとした切っ掛けで仲良くなった。Kさんは七人乗りの船主で博多湾によく釣りに行くとのことで、私も良かったらと誘われた。それ以来３、４年も一緒に釣りをしている。鯵、鰯、キス、アラカブ、太刀魚、鯛、クロ、アコウ、鰆、カワハギなど色々な魚を釣ったが一番感動したのは太刀魚である。

太刀魚は右の写真のような仕掛けを用いる。この仕掛けに鰯などの小魚を丁寧にとり付け海に落とす。海底までは23mで、底に付け、それから糸を速く巻いたり、少し遅く巻いたりして魚が生きて泳いでいるように工夫する。何回か巻き上げている時、ガツッと強い引きがありグイグイグイと下に持っていく。負けまいと私もグイグイと巻き上げる。向こうも必死、私も必死…と急に糸が軽くなる。しまったはずれたかと肩を落としてゆっくり巻いていると、突然Kさんの「速く巻く」との声。私はあわてて速く巻く。するとまた強い引き、どんどん巻いて空中まで引き上げる。太刀魚の銀白色の肌が太陽に照らされ、ピカッと光る。私は思わず「ワーッやったー。」と大きな声をあげた。バタバタバタと甲板で跳ねる太刀魚、美しい。

帰宅して、太刀魚を三枚におろし、薄く切りポン酢で食べる。格別な味である。



天衝舞浮立

S56卒　白石支部　　川　　﨑　　健　　二

それは福岡ドームができて間もない頃です。近所の子供クラブのYさんに「親子で野球を見に行かないか？」と声をかけられ、ホイホイついて行ったのが運の尽き（？）でした。気づいた時には親子４人、なぜか東神野天衝舞浮立保存会の会員になっていました。

玄蕃一流天衝舞浮立は460年の歴史があり、堀江神社から県内各地に伝搬しました。メンバーは小学生から90代までの老若男女、応援まで含めると100名近くになります。奉納以外にも佐賀市重要無形民俗文化財として、県伝承芸能祭や佐賀城下伝統芸能祭、桜マラソンの応援にも出演します。静岡県での大会に県代表で出たこともあります。

東神野は街中ですが後継者不足で、地の者だけでは賄えません。転入者なのにいきなりレギュラーメンバーに抜擢されて、私は嬉しくてたまりませんでした。そして10年前、わが家がすぶそ（当番総代）になりました。１年間堀江神社の御神鏡を家に預かり、神事を行い、11月３日の奉納はわが家からスタートしました。おかげさまで、その年たくさんいいことがありました。地域の方々とのつながりも深まりました。

元々は雨乞い、五穀豊穣を感謝するものでしたが、今ではまちづくり、地域の大切なコミュニティです。そして何よりも、我が家にとっては家族の大切な絆、思い出になっています。

長生きするために

S36卒　藤津・鹿島支部　　山　田　義　治

私のかかりつけの病院の先生が、先日の血液検査の結果を見ながら「う～ん、いいねえ。あと10年はまちがいありません。」と自信をもって言ってくださいました。90歳までは大丈夫ということになります。

私は、現在81歳になりますが、それなりに努力してきたことがあります。まず起床から始まります。起きたらすぐにパンツ一枚になり乾布摩擦を２～３分。体が温まります。おかげでほとんど風邪をひいたことなし。腹筋20回、斜め懸垂160回、それから20分ばかりの散歩。道々には握力強化のためテニスボールを強く握りながらお天神様のお参りも兼ねています。

私は、趣味をたくさん持っています。その一つがソフトテニスです。ソフトテニスの素振りをフォア、バック、スマッシュ、サーブ、乱打と100回ばかりします。次にグランドゴルフです。畑１枚を練習コートにし、25m、50mにポストの代用品の丸太を置き、３個のボールを25mを18回、50mを12回、合計30回を畑仕事の前に打ちます。なかなかうまくなりませんが、先日の部落の忘年大会で３ゲームでホールインワン３回、合計打数46打で優勝しました。少しは上達しているかなと思います。

90歳を超えた先輩に「長生きの秘訣」を尋ねたことがあります。即座に「色気たいえ」と。年をとっても必要なことだと思っています。

この他にも、１ヵ月に２回、夜釣りに出かけることもストレス解消になっていると思います。

以上、たいしたことではありませんが、自分なりに一日一日を大切にして長生きしたいと思っています。

サガン鳥栖

H23卒　佐賀市西部支部　　山　﨑　文　敬

私の週末の楽しみの一つにサガン鳥栖を熱く応援するというものがあります。仕事のモチベーションはサガン鳥栖です。用事がある時以外は、駅前スタジアムのサポーター席で応援しています。

そんなサガン鳥栖は、開幕前は最強の攻撃陣と言われていましたが、現在、得点があまり入っていません。素人目から見て、なにが悪いのか全然分かりません。ただ、選手達は上手くいってない自分たちに憤慨し、必死に練習しているはずです。必死に練習している選手を後押しできるような応援をしています。ただ、望めるならば、ホイッスルが鳴るまで全力で走り続けるサガン鳥栖の試合を観たいです。

残念ながら、私が試合に行っていない日に２勝しています。自分が行った日の勝ち点はルヴァンカップを含めて、１です。負け男は、試合に行かないほうがいいのですが、それでも応援に行きます。まだまだ３分の２の試合が残っています。走り続けるサガン鳥栖で残りの試合勝ち点を積み重ね、今季、素晴らしい順位で終えてほしいです。

教育論など

夢ふくらむ鳥栖北小！心ときめき・笑顔かがやき

S 59卒　鳥栖・基山支部　　一　木　徹　也

少にして学べば、則ち壮にして為すことあり
壮にして学べば、則ち老いて衰えず
老いて学べば、則ち死して朽ちず

これは「三学戒」と言われる一文で、幕末の儒学者 佐藤一斎が書いた「言志四録」の一節です。本校の図書館前に掲げられています。

一斎は昌平坂学問所の教授を務めた人物で、佐久間象山、渡辺崋山などの師です。孫弟子には吉田松陰や坂本龍馬がいます。また、西郷隆盛も「言志四録」を座右の書としていたそうです。

この「三学戒」が本校に掲げられた経緯は不明なのですが、学びつづけることの大切さを子供たちに伝えていきたいという、当時の方々の強い思いを感じます。

当時の先生方が思い描いた子供たちの姿が本校にあるのだろうか。理想とした学校となりえているのだろうか。

この「三学戒」を見るたびに、そんなことを考えます。

鳥栖北小学校を築いてこられた先輩方の熱い思いを胸に、子供たちや職員、みんなの夢がふくらみ、心がときめき、笑顔が輝く。そんな新たな時代の鳥栖北小学校を創造していくため、これからも学び続けていこうと思っています。

「三学戒」は、私自身や本校の職員にとっても座右の箴言です。

佐賀生活９年目

H26卒　江北支部　　大　野　美　恵

佐賀大学を卒業して、はや５年が経ちました。今私は江北中学校で理科を教えています。

私は鹿児島県出身です。中高と鹿児島で過ごし、大学も就職ももちろん鹿児島で、と思っていました。そんな私がなぜ佐賀大学に進学し、佐賀で教員をしているかというと、高校のときの担任の先生の言葉があったからです。

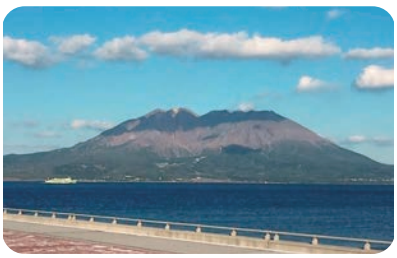
私はずっと中学校の数学の先生になりたいと思っていたので、高校３年間は、鹿児島大学の教育学部数学専修が第一志望でした。しかし、センター試験で思うように点数が取れず、担任の先生から志望校を変えるように言われました。中学数学の免許が取れる他県の大学を調べていたとき、先生からこんな言葉を言われました。

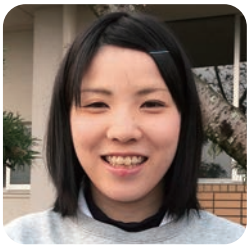
「数学も理科もそんな変わらんが（変わらんやんと同義）。理科の先生になれば？」ということで、佐賀大学の理科選修を受けることになったのです。

入学したてのときは、数学の先生になる夢がやっぱり捨てきれず、４年間で理科の免許も数学の免許も取ればいいよねと思っていました。しかし、そんな激甘な考えが通用するわけもなく、理科と小学校の免許を取ることで精一杯な４年間でした。

大学を卒業し、鹿児島に帰ろうと思っていましたが、教授から佐賀の中学校講師を紹介され、なんだかんだで２年間佐賀で講師をし、なんだかんだで佐賀の採用試験を受け、今に至るわけです。

そんなこんなで佐賀に住み始めて９年経ちます。意外と佐賀での生活が気にいっています。





教師生活１年目を終えて

H30修　神埼支部　　三　浦　未　来

無我夢中で走り抜けた１年間。なにもかもが新鮮で、充実した毎日。時間はあっという間に過ぎていった。

期待と不安を膨らませながら迎えた教師生活１日目。同僚の先生方の前で挨拶をした後は、すぐに現実がやってきた。始業式、入学式に向けての度重なる会議。教材研究と授業実践。生徒指導、部活動指導、様々な行事。想像以上のハードスケジュールで心と身体はいつもヘトヘトだった。しかし、そのような中でも、まわりの先生方からの手助けを受けながら、何とか１年を終えることができた。

この１年間を通して、生徒に何か伝えることができたのだろうか、生徒の成長に少しでも関わることができたのだろうか。生徒に対し少し後ろめたい気持ちを抱えたまま迎えた最後の学活では、そのような思いを一瞬で吹き飛ばしてくれたプレゼントが用意されていた。それは、副担任をしていたクラスからの色紙と手作りの花束である。一人一人のメッセージを読み、この１年間の自分を認め、生徒のおかげで成長できたことを感じることができた。

最近、再び１年前に感じたような期待と不安が募ってきた。この１年間の経験を生かし、全力で職務を全うしながら、今後も生徒と共に成長できる教師であり続けたい。

一期一会

H23卒　佐賀市北部支部　　中　山　由里子

私は佐賀大学を卒業後、他県で教員を経験し、退職して佐賀県に戻ってきました。佐賀県では非常勤講師と支援員として１年間勤めた後、現在は佐賀市立川上小学校に勤務しています。今、学生の頃に想像していた道より少し遠回りして故郷の佐賀県で働く中で、出会いの大切さを改めて感じています。教員採用試験を受けたり、退職したりする中で、自分の進むべき道はこれで良いのかと幾度となく葛藤してきました。しかし振り返ってみると、大学の仲間や他県でできた仲間、故郷に帰ってからの同僚、先輩方、子どもたちなどすべての出会いが今の私の原動力だと感じます。

大学時代、私は体育分野に所属していました。周りには運動が得意な友だちが多い中、私は運動が好きではあっても得意ではありませんでした。そのときに、運動が苦手な子どもの気持ちを実感した気がします。でも友だちが励ましてくれたり、一緒に練習してくれたり、コツを教わったりして乗り越えてきました。教員になった今もその時の気持ちを忘れず、体育の時間だけではなく学校の多くの場面で得意な子も苦手な子もみんなが楽しめるようにと心がけています。

嬉しい時にともに喜び、辛い時にともに悲しんでくれたり、励ましてくれたりする仲間に感謝しながら、これからも一つひとつの出会いを大切にしていきたいと思います。

NIE教育実践校の指定を受けて

H元卒　小城・多久支部　熊　谷　智　之

昨年の４月に小城市立砥川小学校に新任教頭として赴任した。久しぶりの学校勤務だったが、市内での勤務経験もあったことからすぐに地域の方にも温かく迎えていただき砥川での日々が始まった。

しかし、この１年間は偶然にも３つほどの研究指定が重なり、数年分の経験を積んだような日々であった。その指定の１つがNIE教育実践校。この２年間、新聞の無償供与を受け、学校全体で新聞を身近に感じられるような取組を行ってきた。先日行われた県研修会では、新聞形式にまとめることにこだわってきたことで、メモをとる力や短い文章で言いたいことをまとめる力がついてきたことを紹介したり、新聞記事をもとにしたワークシートの活用について発表したりすることができた。また、委員会活動の意義や仕事の内容を５年生から４年生に伝えるという授業を公開し、そのことを後日新聞に大きく取り上げていただくなど、子どもたちに価値付けできたことは大変貴重な経験となった。

ともすれば研究指定を受けることが負担になるという状況の中、教師も児童も積極的に取り組み、力をつけていく様に大きな感銘を受けた。

新聞というメディアのもつ力が学校と結びつくことで起こせた化学反応。実践校というご縁をいただいた学校として、今後もNIEの実践が広がっていくことを願うばかりである。

県庁職員から学校事務になって

H28院卒　武雄支部　幸　田　美　咲

県庁に入庁して５年目、学校事務となって３年目を迎えようとしています。大学生の頃、学校の先生になるか、県庁にいくのか悩んだ時期があったのを懐かしく思います。私が赴任した若木小学校は全校児童80名（平成31年４月現在）の小さな学校です。事務職員の私でも、全校児童の名前と顔が一致するくらい、毎日子どもとたくさん触れあって過ごしています。

県庁職員から学校事務になって、私自身気付かされることがたくさんありました。その中でも「現場」を経験したことはとても大きな宝になりました。新採で初めて経験した職場では、「現場」を大切にするようにと指導をされ、私自身もそれを意識していました。しかし、実際に経験してみると思っていたよりも大変だなと思いました。自分が学校という現場に入ってみて、最初に調査の多さ、出張の多さに驚きました。さらに、すきま仕事も多く、学校という現場はとても忙しいんだなと感じました。今回の異動では、仕事を依頼する側の視点だけでなく、その仕事を実際にする側の大変さも経験することができ、とてもいい勉強になったと感じています。

まだまだ３年目。今年度も子ども達とたくさん接して、子ども達の笑顔あふれる学校になるよう努力していきたいと思います。

有田工業定時制にて感じたこと

Ｓ62卒　県立・私立高校　　川　﨑　秀　樹

有田工業定時制に赴任していろんな生徒と触れ合ってきたが、どの生徒も優しい心を持っていると感じている。小学校や中学校の段階で不登校を経験している生徒が多く、その原因が何であるにせよ、自分に構って欲しい、注目してほしいという思いから本校に入学しているのではないかと思う。クラスの規模が小さく、先生と生徒の距離も近いし、生徒同士の距離も近い。そのため、お互いを思いやれるし、学びのつまづきにもすぐに先生が対応してくれるので、安心して授業についていける。この安心感は、学校に行こうという意欲につながり、生徒本人の皆勤や精勤に結びついている。全日制の３年間よりもさらに１年長い４年皆勤を達成する生徒も毎年いる。

対外的活動でも成果を挙げている。毎年10月開催の佐賀県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会では、どの生徒も素晴らしい体験発表をしてくれる。その大会で知事賞を受賞し、東京で開催される全国大会に参加した生徒もここ数年続いている。また、体育系分野でも６月に佐賀県高等学校定時制通信制体育大会があり、優勝したチームは８月の全国大会に進むことができる。本校でも過去に何度か全国大会に出場している。

ほとんどの生徒が昼間はアルバイトをしており、勤務態度など職場からの評価も高い。月１回行われる校内清掃についても日頃から職場で整理・整頓、丁寧な清掃が習慣づけられており全日制より要領よく行うことができる。また、文化祭のバザーでは生徒の接客スキルが高く、来訪者に積極的に声をかけており商品が昼過ぎにはなくなってしまう。このように、定時制に通う生徒たちは、学校と職場という二つの場所で学びの経験を積み、自己を成長させている。

教職大学院での学びを通して

Ｈ９卒　唐津支部　　田　邉　　綾

平成９年に佐賀大学教育学部を卒業して小学校の教員となり、22年目を迎えました。そして、私は平成30年４月から佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）で学ぶ機会を頂き、再び佐賀大学の門をくぐることになりました。小中高の現職教員10名、学部卒で修士課程に進学したストレートマスター10名、合わせて20名が３期生として入学し、「理論と実践の往還」を原理としたカリキュラムのもと、年齢や校種を越え、20名が一つのチームとして、学びに向かうよりよい集団を目指しています。一番の喜びは、たくさんの出会いです。小中高いろんな校種の仲間と話をし、大学院の先生方の様々な考え方や理論を学ぶことができ、大変充実した毎日を送っています。

大学院の授業の多くは講義形式ではなく、院生の発表が中心となるグループワーク形式を取り入れた授業構成となっています。発表者は参考文献を読み込み、資料を分析し、ポイントとなることについて分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかを考えながら、パワーポイントにまとめます。授業では、発表を受けてのグループ討議も行います。発表内容に沿って、現職教員がこれまでどう実践してきたか具体例をあげて話したり、ストレートマスターがこれまで学んできた理論と結びつけて意見を述べたりしながら、より深い学びへと向かいます。発表の準備やレポート作成は大変ですが、院生同士が協力し合い、励まし合いながら進めています。私たち現職教員は、これまでの実践について理論的に振り返ることができるとともに、ストレートマスターの皆さんの若い感性や広い知識にも刺激を受けています。

２年次である現在は、週に一度大学に通いながら、所属校である西唐津小学校において、１年次に学んだ理論をもとに探究実習（学校変革試行実習）を行っています。このような機会を与えていただいたことに感謝し、学び続ける姿勢を持ち続け、大学院で学んだことを今後の教職人生に生かしていきたいです。

わがまち・みやき

S58卒　三養基支部　**陣　内　富　子**

平成25年４月、みやき町立三根東小学校に着任しました。教頭として３つ目の市町でしたが、教諭時代を含めてこれまで本町での勤務経験がなく、新鮮な出会いの連続でした。

その一つ、入学式や体育大会等主要行事で歌う町歌『わがまち・みやき』には、児童も一町民として町づくりに関わる意識をもつようにという熱い思いを感じました。明るい歌詞と旋律に魅了され、澄んだ児童の歌声に元気をもらったことは言うまでもありません。その後、校長として中原小学校に２年間、続いて三根西小学校に３年間、町内４校のうち３校を経験することができました。

この３校での日々を振り返ると、「愛」を感じるできごとがたくさんありました。三根東小では、重い病気を患ったウサギのホワイトが入院先からお別れに帰校した際、獣医さんと一緒に聴診器で聴いた「小さな命」の鼓動。毎年「命を尊ぶ」天建寺渡し船転覆事故犠牲者を追悼する集会。中原小では、伝統ある相撲大会への参加児童を増やすために企画した「地域を愛する」相撲の練習会。三根西小では、数年ぶりに再開した登下校見守り感謝の会で児童に注がれたサポーターの皆様の「地域の子供を愛する」言葉の数々。

これまで多くの町民の皆様にお世話になり、思い出もいっぱいです。みやき町での６年間で頂いたたくさんの優しさを心に留めて、次の赴任地でも元気に過ごしたいと思います。

教職３年目を迎え

H29卒　佐賀市東部支部　**齊　藤　真衣子**

今年も桜の花が咲きほこる季節がやってきました。気づけば大学を卒業し、教職について３年目に入ります。そもそも私が教職につきたいと思ったきっかけは、大学３年生のときに行った教育実習でした。授業をすることの難しさを痛感した実習でしたが、温かい雰囲気の学級を見て、「こんな学級をぜひつくってみたい。」と思いました。自分だったらどんな学級にしたいだろうと考えるだけでワクワクしました。今では実際に担任として学級経営をしています。とても難しく上手くいかないことばかりですが、子どもたちの成長を感じたときはとても嬉しくて楽しいです。

右も左も分からずに毎日バタバタ駆け回っていた１年目。少しだけ見通しが持てるようになってきた２年目。そして、いよいよ３年目。学校での役割も増えてきました。頼りになる先輩方の力を借りながら、さらに経験を積み、一日でも早く一人前の教師として活躍できるようにがんばりたいと思います。佐賀大学を卒業された先輩方、お会いしたことのある方もない方もどうぞ応援よろしくお願いします。

佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】令和元年11月16日㈯　午後～
【場所】佐賀大学本庄キャンパス
【目的】佐賀大学の卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師、学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。
【対象】卒業年度にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授
【内容】大学の近況報告、講演、美術館見学、懇親会等
（懇親会にご参加の場合、参加費2,000円が必要です。）

※詳しくは、佐賀大学校友会のホームページのお知らせをご覧ください。
（URL https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/）
※申し込み・連絡先　校友会事務局
（E-mail：kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp）TEL：0952-28-8154

小　城　多　久　支　部　便　り

小城多久支部は、ここ10年は支部総会を開いていませんでしたが、130周年を迎えたこともあり、集うことにしました。年度末の３月５日㈫、砥川小学校にて、宮尾会長様、竹下事務局長様にご出席を賜り、有朋会の現状と今後の見通し等の説明等をしていただきました。その後、本校教諭加藤によるNIE教育についての実践報告、懇談という流れで行いました。

宮尾会長様、竹下事務長様からは、会員の活躍の様子や会員数減少の実態等を直接伺い、10年、20年先を見越して今何をすべきかを考える機会となりました。また、ボランティアに近い状態で会の運営を継続されている本部の方々のご苦労も感じられ、一会員として責任を痛感することとなりました。

ミニ研修では、本校が昨年度からNIE教育実践校として指定を受けていたことから、その報告をさせていただきました。発表内容についてもっと広く聞いてもらった方がよかったとの評価をいただき、有り難く思いました。懇談会では、会員の自己紹介や近況を聞き合いました。昔を懐かしむ声も多く、時の流れを感じたところです。最後に、宮尾会長から現役職員への激励の言葉をいただき閉会としました。

年度末の慌ただしい時期でしたが、忙中閑ありでほっとしたひとときとなり、年度末に向けて気持ちを新たにすることができました。参会者の皆様に心より御礼申し上げます。

（支部長　田中　裕子）

福　岡　支　部　便　り

福岡支部の総会は、例年３月の終わり頃に行っています。毎年、50名弱に総会案内状を送付し、半数弱の返信があり、その半数弱の総会出席があるのが現状です。「友達の紹介で来ました。」などの新しい会員があり、この数年12名ほどで総会が開けていたのですが、平成30年度は、７名の参加で、寂しい限りです。

返信の中には、「あの世に旅立ちました。」という悲しいものや、「今年もワカメ拾いに行きました。」という文通相手からのような楽しいものもあります。コメントは、プリントして配布しています。総会・懇親会では、佐賀大学の現状や街の様子、また近況報告やコンサートのアピールなど、佐賀弁での会話が弾みます。古賀逸夫氏の自費出版本「青春の学徒動員」を130周年記念誌編集委員に報告できたのも、総会への寄贈があったからです。

（支部長　鶴　　久生）

江　北　支　部　便　り

江北支部は、江北町と大町町の２町にお住まいの有朋会員と江北小中学校と小中一貫校大町ひじり学園の教職員の有朋会員で構成されています。私は、平成29年度に江北中学校に初めて赴任してきた時、なぜ２町からなるのに江北支部というのか不思議でなりませんでした。どうも「平成の大合併」前は、杵島郡内の大町町、江北町それに北方町を合わせて「江北部」と呼んでいたようで、そこから「江北支部」と呼ばれたようです。北方町が武雄市になったため、現在は２町で構成され、たぶん県内でも一番小さな支部と思います。しかし、毎年町の教育長や元校長先生、教職員、時には高校生を講師に迎えて総会を開き、交流を深めてきました。残念ながら平成30年度は、日程の都合がつかず、開催することができませんでした。令和元年度はぜひ開催したいと思いますので、江北支部の皆さんの参加をお待ちしています。（写真は平成30年１月13日開催の支部総会での集合写真です）

（支部長　宮原　健二）

本　部　便　り

総会・懇親会

期日　令和元年８月31日（土）

会場　ガーデンテラス佐賀　ホテル＆マリトピア
佐賀市新栄３丁目７番８号　　TEL：0952-23-0111

日程
○役員打ち合わせ：12：00～　《本部役員・支部長・実行委員（H元卒）》
○受付：12：30～
○【第Ⅰ部】有朋会総会　：13：30～14：10
○【第Ⅱ部】記念行事　　：14：20～14：50
○【第Ⅲ部】懇親会　　：15：00～17：00
○【第Ⅳ部】H元卒同期会：17：30～19：00

会費　3,000円（会費は、受付にてお支払いください。）

申込　本部へ直接（FAX：0952-25-5700）・各学校委員や支部長へ

※ガーデンテラス佐賀へは、JR佐賀駅北口より送迎バスを用意します。
〈11：30発（役員・H元卒用）〉〈12：00発、12：30発（来賓・喜寿・古希・還暦・一般）〉
※会終了後、JR佐賀駅北口へ送迎バスを用意します。
※今年度の実行委員（お世話担当）は、H元卒の皆さんです。

追悼会

期日　令和元年11月17日（日）

会場　願　正　寺
佐賀市呉服元町6-5　TEL：0952-23-4001

日程
○役員打ち合わせ：９：00～
○受付：９：30～
○追悼会：10：00～11：20

※明治24年有朋会員による「総集会」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑が建立され、全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

令和元年度　有朋会行事予定

月	日	曜	本部行事	備考
4	1	月	教職員異動新聞発表（異動による名簿更新）	※各支部で会員把握
	3	水	佐賀大学入学式・大学院オリエンテーション	※代議員名簿締切26日
	4	木	佐賀大学学部オリエンテーション	
	9	火	第１回正副会長会18：00～	採用試験支援開始10日～
	20	土	第１回本部役員会15：00～	
5	15	水	会報38号原稿集約〔３月29日支部原稿締切〕	採用試験支援（個別指導１）
	17	金	H元卒総会実行委員の依頼	
	29	水	会報38号第１回編集会議（２回校正）	菱の実会館小会議室
6	1	土	第１回代議員会・事務担当者会15：00～	多目的室
	12	水	会報38号第２回編集会議	菱の実会館小会議室
	14	金	各支部会報部数調査	
	19	水	H元卒実行委員代表者の打ち合わせ19：00～	菱の実会館小会議室
	26	水	各部会実施予備日	※各部会で決定
7	1	月	喜寿・古希・還暦　感謝状の確認	
	8	月	会報38号発行後、発送開始（各支部へ）	
	10	水	第２回正副会長会18：00～	菱の実会館小会議室
	24	水	H元卒世話役の打ち合わせ19：00～	菱の実会館小会議室
	26	金	喜寿・古希・還暦該当者、感謝状受賞者報告締切 県内会員数調査　締切　　会費＝月末締切	会費納入締切（現職）
8	2	金	懇親会参加申し込み　締切	採用試験支援（個別指導２）
	7	水	学部意見交換会（学部課程代表）18：30～	菱の実会館多目的室
	19	月	総会・懇親会の準備	採用試験支援（個別指導３）
	31	土	総会・懇親会13：30～ 役員打ち合わせ：本部・支部長・H元卒　12：00集合	ガーデンテラス佐賀
9	27	金	本年度追悼対象者報告　第１次締切	会費納入締切（退職者）
10	1	火	追悼会案内の発送	
	9	水	第３回正副会長会18：00～	菱の実会館小会議室
	14	月	本年度追悼対象者報告　最終締切	
	19	土	本部役員会15：00～	菱の実会館多目的室
11	16	土	佐大ホームカミングデー（予定）14：00～18：00 願正寺との打合せおよび前日準備	対象：卒業生の全て 事務局
	17	日	追悼会（願正寺）９：00～11：20	各支部より３名程度
	23	土	佐賀県青春寮歌祭13：00～	エスプラッツホール
12	4	水	第４回正副会長会18：00～	菱の実会館小会議室
1	8	水	学部意見交換会（学部課程就職担当）18：00～	菱の実会館多目的室
	24	金	就職支援講座担当者会15：00～	学部、就職支援課、講師
2	15	土	第２回代議員会・事務担当者会15：00～	菱の実会館多目的室 未納会費の納入締切
3	24	火	佐賀大学卒業式10：00～・祝賀会12：30～	佐賀市文化会館
	30	月	有朋会監査10：00～	菱の実会館小会議室

会費納入へのお願い

※会費納入は、基本的に下記の要領で！
特別会員（師範学校卒業）の方は免除。
会報が必要な方は、校区小学校の学校委員に連絡を。

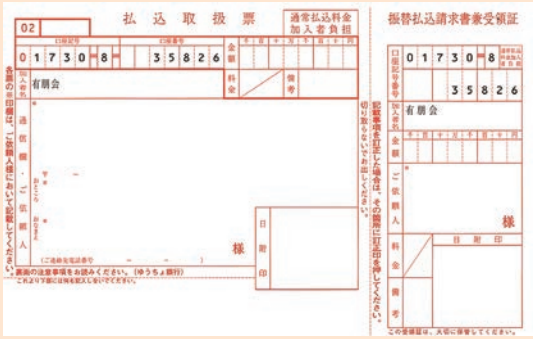
【１】県内学校勤務の会員は？
学校単位で徴収し、支部の事務局へ納入。

【２】県内の退職会員は？
校区の小学校に持参するか、同封伝票で。
金額は地区により異なるので確認を。

【３】県外会員の方は？
各県の事務局へ納入。年会費は、1,300円。
福岡県は支部費を含み、2,300円。
新規納入の方は同封の伝票でも可。

【４】卒業後６年経過の会員は？
県内在住者は、上記１、２の方法で。
県外在住者は、別添振込み用紙で、郵便局の口座に納入。

【５】払込納入を希望される方は？
・ゆうちょ銀行や郵便局ＡＴＭで。
・口座番号　０－１７３０－８－３５８２６
・加入者名　「有朋会」
・払込取扱票は、「赤」の用紙をお使いください。
・できるだけ早期に納入を済ませてください。



有朋　第38号
発行日　令和元年７月１日（月）
発行者　有朋会会長　山田直行
編集者　編集部長　江島きよ子
事務局　事務局長　竹下敬教

住所　〒840-8502　佐賀市本庄町本庄１
佐賀大学菱の実会館　TEL 0952-23-1253
E-mail dousoukai@sadai.jp
HP http://sadai.jp/alumni/